

コアサービス実証活動(ビジネスベンチマーク) の進め方

平成26年度 第1回 海洋・宇宙連携委員会

平成26年6月4日

コアサービス実証活動(ビジネスベンチマーク)

- 本年度から概念検討と試作が開始されるコアサービスについて、付加価値提供者をはじめとする利用ユーザとのインタラクションを通じて**継続的に要件を吸い上げることを目的に実証活動(ビジネスベンチマーク)を行う**
 - ➡ コアサービスが提供するサービスや機能が、ユーザ(特に付加価値提供機関)による事業やビジネスに有効なものとする

■ 最終目標

- 参加者がコアサービスに実際に接続してデータを入手・利用し、コアサービスの改善、発展に向けたフィードバックを受ける

■ 最終目標に向けた手順(案)

■ 2014年度

- コアサービスを事業やビジネスに利用する観点で、必要となる要件の洗い出し(検討への参加、利用コミュニティの形成)
- 同時に、現状の民間の海洋情報サービスの業務分析及びデータフローを調査し、コアサービスへの移行を促した場合の課題を整理

■ 2015年度以降

■ プロトタイプフェーズ

- ✓ コアサービス・プロトタイプを実際に利用していただき、提供サービス(WMS等の標準インタフェース、MapサービスAPI等:検討中)の機能・接続性・利便性等を評価し、評価結果を開発へフィードバック

■ 実証フェーズ

- ✓ 事業やビジネスに利用する観点で運用性等を含めて評価し、評価結果を開発へフィードバック

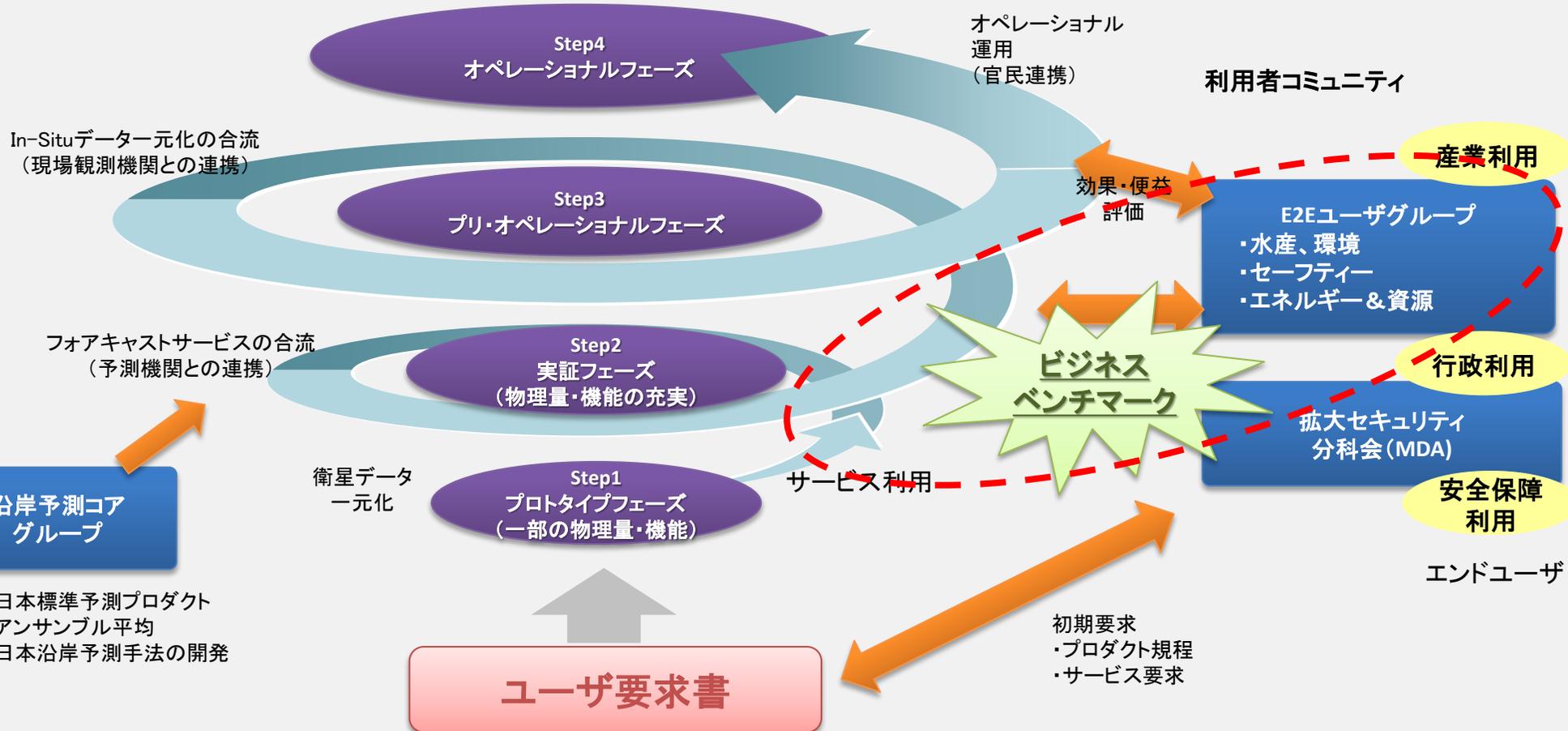
オペレーショナルフェーズに向けた構想

連携機関の拡大

コアサービスの発展的拡大

サービス内容の拡大とユーザーインタラクション

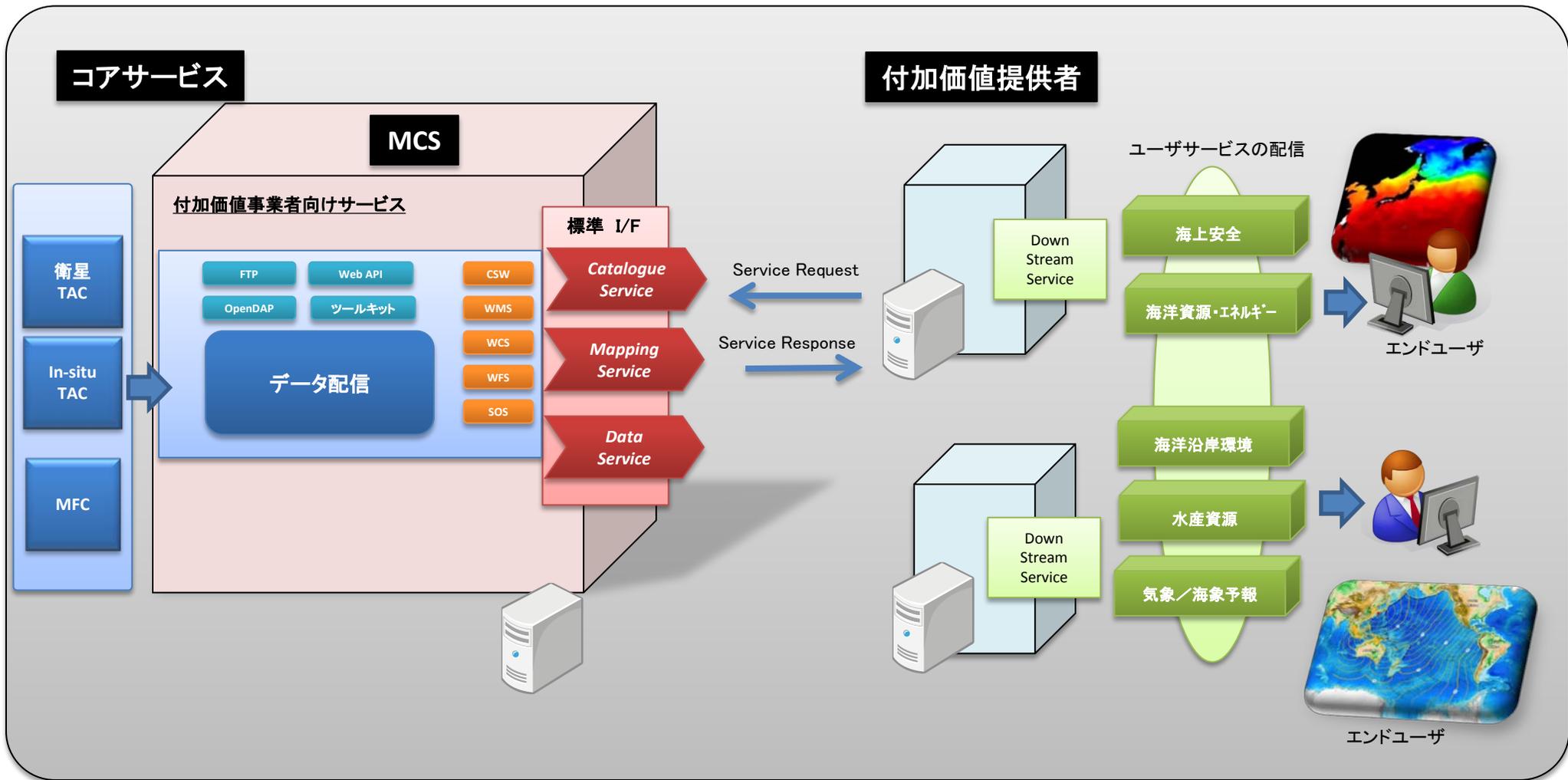
World Wideな展開と協力・連携



- 日本標準予測プロダクト
- アンサンブル平均
- 日本沿岸予測手法の開発

付加価値提供者によるコアサービスの利用イメージ

ビジネスベンチマークによる実証活動を通じて機能を検証し、コアサービスの開発にフィードバック



協力機関候補

分野	組織	付加価値事業	備考
水産	A	オンボードトレダスデータ提供事業 最新の海洋情報コンテンツ提供(北海道海域、黒潮親潮海域、日本海域、黒潮続流海域)	
環境	B	環境影響評価、生態系評価(解析モデル) 現象予測(富栄養化、底質、大気質、悪臭、騒音、振動等の予測 波浪、港内静穏度、局地風、気候変化等の予測 汀線・地形変化予測、評価 航路の埋没予測 漂流物の移動予測、貧酸素水塊の移動予測)	
環境	C	環日本海海洋環境ウォッチ事業 衛星データを利用して広域的かつリアルタイムな日本海及び黄海の現状を把握	
資源・エネルギー	D	CCS影響評価(苫小牧、環境省／大水深CCS) 沿岸～沖合にかけての潮流、海流 様々な時空間スケールの組合せ	
海洋再生可能エネルギー	E	海流、潮流、波浪、海上風等を用いた海洋再生エネルギー開発適地選定	
海上安全	F	海上風、波浪、海洋の観測データや解析・予測・追算データを利用し、船舶、海洋エネルギーや沿岸・港湾域等に従事する事業者へ効率的かつ安全な作業を支援するサービスを提供	

■ その他候補

- 海上安全、行政機関

E2E分科会でも紹介し、関心を表明した組織には検討に参加していただく。